

第3回いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会 会議録	
会議名	いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会
開催日時	令和7年7月4日(金) 15 時 00 分から 17 時 00 分
開催場所	区立グリーンホール 502 会議室
出席者	[委員]12 人(敬称略) 岡田 匡令(会長)、岡本 信広、杉田 理恵、なかむら しんいちろう、川口 雅敏、別府 明雄、吉田 知人、大橋 薫、甲斐田 洋希、ハッカライネン・ニーナ、金子 和也、平岩 俊二、(欠席:1人) [事務局] 文化・国際交流課長 高田 智也
会議の公開	公開(傍聴できる)
傍聴者数	0 名
議題	1 開会 2 会長あいさつ 3 検討会報告書(案)について 4 今後のスケジュール
資料	資料 1 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会工程表 資料 2 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 検討会報告書(案) 資料 3 文化芸術部会・多文化共生部会 意見要旨 資料 4 第3回検討会 作業シート(文化芸術部会) 資料 5 第3回検討会 作業シート(多文化共生部会) 参考資料 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2030 骨子案について
議事録	【開会】 事務局 定刻となりましたので、ただいまから第3回いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会を開会させていただきます。初めに岡田会長からご挨拶を頂戴できればと思いますので、よろしくお願いいたします。 【会長あいさつ】 会長 いよいよ最後の検討会として、報告書の取りまとめということになってございます。これまでいろんなご意見を賜りまして、また、部会の方でも十分検討してご提案いただいていると思っております。議論を深めてまいりたいと思っておりますので、本日もよろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。これまで検討会に欠席されておりました、吉田委員とハッカライネン委員が本日初の顔合わせということで、ご紹介させていただければと思います。

(吉田委員・ハッカライネン委員の挨拶)

事務局

ありがとうございました。

なお、本日本村副会長より欠席の連絡をいただいております。また、本日、現時点では傍聴希望者はいないという状況でございます。

【検討会報告書(案)について】

会長

それでは、次第に沿って進行いたします。まず、次第の2番、検討会報告書(案)について、事務局から説明をお願いします。

事務局

(次第2について説明)

会長

ありがとうございました。ただいま事務局より、部会での意見を踏まえた検討会報告書(案)についての説明がありましたが、ご意見はないでしょうか。

事務局

本日欠席されています木村副会長からもご意見を頂戴しておりますので申し上げます。「報告書に書かれていることを誰が、どのように実行し、広め、点検評価からアップグレードしていくかがすべてです。何処の行政の議論でも、結局は検討会で出された素晴らしい意見を如何に生かしていくかが勝負になります。しかし、それは時代とともに変化しなければなりません。要は、板橋区の担当者と区民の情熱・共感・協働の一体感が必須です。かつ、議論・実行・継続・評価を繰り返し、常に変化すること、発信することでサステナビリティが担保できるはずです。」

会長

木村副会長のご意見が極めて基本的な内容であろうと思います。他にご意見はないでしょうか。

委員

資料2の5ページの(5)ビジョンの位置づけの中の板橋区観光ビジョン2035 となっているところは正しくは板橋区観光振興ビジョン 2035 なの

で、訂正をお願いします。

また、7ページの一番上に美術館の話が出てきますけれども、文化財の発信として、郷土資料館にも貴重な文化財がいろいろありますし、甲冑の展示などをやりますと、かなり多くのお客さんが見えます。ですから、ここは発信している拠点として、郷土資料館も入れていただいた方がいいのではないかと思います。

さらに、9ページに赤塚城戦国絵巻武者行列とありますが、これは武者行列と同時に高島秋帆にちなんだ西洋流火砲術鉄砲隊が演技をしています。また、徳丸ヶ原が江戸時代に幕府の鷹狩場だったことにちなんで、今年は梅まつりの際に鷹匠も実演をしましたので、そういったところも紹介していたければと思います。

あと、情報の発信について、デジタル技術とか QR コードを使ったものとか、SNS 利用とか、とにかくデジタル技術を発信に活用するのがもう不可欠になっているので、そういった言葉を入れた方がよろしいのではないかと思います。

会長

DX は庁内業務だけでなく、むしろコミュニケーションツールとして導入していくことが必要だろうと思います。全庁的な内容になるので、基本構想の方でやっていくこととは思いますが、そこがなければこのビジョンの中だけでもということだと思います。

委員

板橋区の行政評価として、目標を立て、施策を立てて具体的な実行をしていく場合には、具体性が非常に重要だと思います。それぞれの意見で、これは目標にするといいのではないかという点が結構ありますけども、それは今後どのような議論として具体化が進んでいくのでしょうか。この報告書というよりも、それぞれの委員の具体的な提言について、どのように活かされていくのかを教えてほしいと思います。

事務局

この報告書をもとに我々の方でビジョン 2030 を策定することになります。その中では目標を定めるとともに、当然どういった取り組みを行っていくかというところまで触れた内容となった上で、今年度中に策定を行って、来年の4月から計画期間がスタートする形となります。そのため、その目標、参考資料を今イメージとしてお渡ししておりますが、その細部の取り組みといったところを検討する際には、資料2の24ページ以降の提案の部分だけではなく、会議を通じて皆様から頂きました事業に関するご意見ですとか、取り組みというところも踏まえて検討を進めてまいりたいと考えておるところです。

委員

今回の委員の意見というのは非常に具体的です。具体的であるからこそ、

何をしたらいいかが明確になりますので、ぜひ拾っていただいて、何回かこれまで申し上げてきた子育て世帯に優しい板橋区。その人たちが板橋に来て暮らすことによって、板橋区がより充実してサラリーマン世帯がどれだけ住んでくれるかというのが財政的なポイントになってくると思いますので、より良いものを作るために具体的に方針を立てていただきたいと思います。

会長

こういった意見は至る所で発信してもらうのがいいと思います。

委員

せっかく文化と芸術が盛んな板橋区であるのに外国人区民はあまりそのことを知らないのです。コラボして、外国人区民にも文化と芸術を発信するような仕組みがあったらいいなと思います。

また、外国人向けに一方通行の発信ではなくて、対話が生まれるような発信・SNSがあったらよいと思います。

会長

すでに小さな市くらいの数の外国人が板橋区にはいるので、こういった意見をしっかりと受け止めていく必要があります。

また、外国人土地所有問題、家賃、マンションの民泊化問題など、行政が日本は不利だと思っているのは大間違いで、その国、その地域のルールの中で、お互いにやっていかなければいけません。

委員

資料2の23ページ、外国人の急増に伴う課題というところについて、令和7年1月1日時点で37,481人の外国人が板橋区にいます。戸籍住民課に日本語が話せない外国人、中でも英語、中国語、韓国語などの主要な言語以外の話者が来た際の対応はどうなっていますか。

事務局

戸籍住民課を中心に、いろいろな窓口で外国人の方が手続きする際に、区役所ではKOTOBALという、多言語に対応できる翻訳機を導入してございます。

ただ、当然それで対応できる部分もあれば、そもそも戸籍住民課で対応する外国人の件数が増えると、1件あたりの対応もかなり時間を有するものですから、全体的な待ち時間につながってしまうなど、課題も生じているというふうには認識をしているところでございます。

一定その技術、機器の導入ということでカバーをしながらではありますが、取り組んでいるところで、ただ今後また増えていった時に、さらなる待ち時間の長時間化ですとか、今後想定される問題というところもありますので、それは我々も当然入りながら検討していかなければいけない課題であると認識してございます。

委員

どこの国から来ても生活習慣が違ってくると思いますが、そういったところの指導は何かやっているのでしょうか。

事務局

例えばよく例に出るのがゴミの出し方ですとか、そういった案内というのはひとまとめにした形で、戸籍住民課、区民事務所で転入の手続きをする際に、そのセットをお渡しして、それをご覧いただくという形でまず周知を図っているところです。

あとは、(公財)文化・国際交流財団の方でも相談を受ける体制もありますので、そういった対応も行っているところではあります。

ただ、おっしゃった通り、生活文化をどう理解していただくかというところは、非常に難しい部分でもありまして、それが現状できていないことで、いろんな問題につながってしまっているところがあると思います。日本での文化にどう馴染んでいただくか、馴染ませていくかというところは、今後求められていく取り組みであるとは認識しております。

会長

多文化共生は生活に関わる部分で、ここでひとまとめにすることが大変なくらいなので、区民文化部全体で協議する場にこの情報が届いてくれば、ご発言いただいた意味があるということになるかと思います。

委員

まず位置づけを確認させてください。資料2の4ページなのですが、ビジョンの体系の下の方にある文化芸術・多文化共生ビジョンの基本目標と、それから個別目標があって、これがビジョン 2025 でやってきたということですよ。そしてその中で残された課題があるから、その課題に関して検討テーマを立てて我々は検討していき、この検討委員会の報告書を出すことになると思うのですが、ビジョンの策定部署ってどちらになるのですか。

事務局

文化・国際交流課にて報告書を受けて、それをもとに、今お配りしている骨子案を、さらに精査をかけて、ビジョンを策定してまいります。

委員

多文化共生、すなわち異なるコミュニティから来た人々を受け入れることは、どの国にとっても難しい継続的な課題です。そのため、施策の方向性の一つとして、区民と外国人居住者の意識をいかに一致させていくかを、区が簡潔な言葉で発信することが重要です。そしてそれが常に耳や目に入るという形で意識をしてほしいです。一区民であるという意識啓発をずっと続けていかざるを得ないと思います。そういうことができれば、区民として一緒に暮らし、地域の課題解決ができると思います。

結局、人間の意識は、自分の都合のいい情報しか入らないところがありま

すが、シンプルなメッセージだった方が意外に残ったりするので、そういうことを少し考えていくのがいいのではないかと思います。

委員

参考資料の多文化共生編の個別目標2「言葉の違いを超えて、ともに歩むひとづくり」と施策の方向性の「コミュニケーション支援の推進」はあまりマッチしないと思いました。もっと具体性を持たせた方がよいと思います。

また、個別目標3「笑顔で住み続ける環境づくり」の施策の方向性の「地域コミュニティへの参加支援」ももっと具体的に防災などを記載してもいいと思います。

会長

日本では幸いまだ起こっていませんが、右傾化すると、一部の外国のように、外国人排斥運動、蔑視する、敵視するという土壌を作ってしまうと思います。日本は比較的それは少ない方だろうと思いますが、意識していないと、今言ったように対立を作り出してしまい、軋轢が生まれると、そのエネルギーが不満として爆発するということになるので、それは最低限、行政としてはあってはならないわけです。そういう意味でこのコミュニケーションのパイプを太いも細いも含めてたくさん持つ形、それから集団同士との関わりをいかにして作り上げていくか、作り出していくかということの支援。あるいはプラットフォームを提供するのか、機会を提供するのかというところを少し具体的に入れた方がいいんじゃないですかというお話です。

委員

このビジョンというのはいつからあるものなのですか。

事務局

文化芸術と多文化共生というのは、もともと個別にそれぞれ計画が存在していたものを、この現行のビジョン 2025 から一つのものとして取り扱ってございます。

委員

こういった計画が昔からあることによって、板橋区に関わることができ、こうして皆さんが討論してくださったおかげで夏のアトリエというワークショップとか、枝葉の部分で関わることができています。

板橋は面白い街だなあっていうのが実感としてあります。ワクワクするって言いましたが、ボローニャ絵本原画展とか、美術館でなんかやっているぞ、みんなで行ってみようよみたいな、とても楽しさがあるような、魅力的なまちだと思っています。

次世代を育てるとかいうのはすごく時間がかかるものであって、ちょうど私の教え子が夏のアトリエに初めて参加しているので、ポストサイクルに来たんだなあっていうこともあるので、ぜひ課題を次に持ち越して、それを次につなげていってほしいです。

また、私たちが活動する中で、区に助けてもらいたいときに、どこに助けてもらったらいいのだろうということがあるので、そういった窓口があるといいと思いました。

会長

ワンストップでしかるべき場所へつなげることが大事だと思います。

また、「面白い」、「ワクワク」、「楽しい」という言葉はこういった計画にはあまり使われないので、一つくらいは残しておくといいという気がします。

委員

資料2の25、26ページの施策の方向性をまとめたものが参考資料の第2章、第3章の部分になるのでしょうか。

事務局

報告書の施策の方向性を踏まえて、形を少し変えてにはなりますけれども、こういった取り組みが必要になっていくだろうということで、検討させていただいております。

委員

ブランド強化及びPR強化っていうのをPRが抜けていたりして、抜けていると結構言い回し方が変わるなっていうところもあり、ここは少し気をつけたほうがいいかなというのが一点思いました。

また、企業の立場に立つと、社会貢献をしたくても板橋区のどの部署がどのようなことをやっているのが分からないです。区と企業をつなぐ玄関みたいなところがあって、そこで掲示板みたいな形で見せ、区内の団体、教育機関、企業に手を挙げてもらうというシステムが今のところないのだろうなと思いました。そういったものがあればありがたいと思います。

会長

こういったことをやると、もっとワクワクし、面白い可能性のあるまちになるのではないかと思います。

委員

資料2の7ページ、先ほどここに郷土資料館も入れてはどうかという話がありましたが、美術館と郷土資料館の二つの施設は学芸員がとても活躍しています。特にこの5年美術館は大きな成果、評価を得ています。これは板橋区のブランドだと思っていますので、そういった記述があってもいいのではないかと思います。

また、私は文化芸術部会の委員でもあります。15ページについて、文化芸術部会のなかでは次世代や子育て世帯に視点をおいて、子どものころから文化芸術との接点を持っていきたいという話だったと記憶しています。それが25ページになると、「児童期から成人期まで一貫したアーティスト育成・支援システムが確立され」となっていて、この記載では初等教育という風

なニュアンスになっているように思うので、イメージしやすいように子育て世帯に向けたというようなはっきりとした言い方で表現すると思います。

10 ページの文化芸術を取り巻く環境の変化等に「旧板橋区保健所跡地にホール機能を有した施設を整備予定」と記載されていますが、18 ページの多文化共生の方には記載されていなく、文化施設としてのイメージで受け取られてしまうと思うので、検討している施設のイメージから多文化共生の方にも記載していただきたいと思います。

また、18 ページの板橋区の動向に外国人住民人口のピークを入れるとより厚みが出ると思います。

25、26 ページの 2030 年の目指す姿のところの記載がスローガンと具体的な事業が混在しているように思います。例えば、上の方に方針のような言葉を並べて、施策の表現を下に下ろしてもいいと思います。

最後に文化芸術の施策の方向性の「異なる文化同士の掛け合わせ」という表現について、その時の文化芸術部会では融合という表現だったと記憶しています。

委員

3回にわたって会議を開いていただきありがとうございます。このいたばし文化芸術・多文化共生ビジョンの検討スキームは基本指針、骨子案、素案、原案の各段階において外部委員会を開催するというオーソドックスなパターンではなく、報告書を上げていくというスキームになっております。

オーソドックスなパターンだと既に出来上がったものに対して議論するという少々窮屈な形となってしまいますが、このスキームにしたことによって自由な意見を幅広く頂戴することができたと思います。

この後のビジョンの策定につきましては一定行政側にお任せいただければと思いますが、策定にあたり助言が必要になりましたら、お力添えいただければと思います。

委員

このいたばし文化芸術・多文化共生ビジョンは教育委員会も関わる部分が非常に多いと改めて認識しました。

板橋区は史跡公園の令和 11 年のグランドオープンを目指しまして、整備を進めているところです。板橋区の重層的な歴史と伝統を学べるような場所となっていますので、そこも参考資料の文化芸術編の個別目標2の施策の方向性「歴史と伝統の浸透」に寄与できると思いますので、教育委員会もしっかりと連携して進めてまいりたいと思います。

会長

教育委員会と区で見合って予算がつかないということを見てきているので、そうならないように連携してスムーズにプロジェクト的に取り組んでいただければと思います。

委員

先ほどの発言の補足です。

参考資料の第3章多文化共生編の個別目標2の施策の方向性の「コミュニケーション支援の推進」について、「日本語学習支援強化」と内容的にかぶっていると思います。板橋区は防災の通訳ボランティアなどの人材育成を推進していると思うので、「コミュニケーション支援の推進」を「地域防災人材の育成」とした方がよいと思います。

事務局

今いただいたご意見も踏まえて、さらに検討を進めてまいります。

委員

外国人のコミュニティができるのは仕方ないことですが、外国人のコミュニティを閉ざしてはいけないと思います。日本では価値観が共有できなければいけないとおもいますので、そこが多文化共生のやらなければいけないところだと思います。閉じたコミュニティにしない工夫をこのビジョンに書いても良いですし、議論の中に織り交ぜてもいいと思います。

委員

資料2の 26 ページの 2030 年の目指す姿の上から4番目「幼少期から多様な文化や価値観に慣れ親しみ、子どもたちが日々、国際力を高めながら成長している。」について、この文章だけ読むと、どうしても日本人だけの形になってしまいます。実際には、色々な地域から来ている子どもたちもいるので、国籍にかかわらず、子どもたちが幼少期から日本文化にまず慣れてもらう、その一方で、違う文化と価値観に理解を示す、そういった姿の方がいいと思います。

会長

いよいよもって板橋モデルというものができそうな感じがしています。地域形成のモデルとして板橋モデルが全国に発信されるといいと思っています。

長時間にわたってご意見を賜りました。これまでの意見を取りまとめまして、私と事務局で最終的な報告書を作成いたします。

事務局から何かありますか。

事務局

今後のスケジュールでございますが、報告書のまとめにつきましては、岡田会長と事務局で調整し、まとめさせていただきたいと考えております。それを踏まえて、報告書を7月の中旬を目途にまとめたいと考えております。報告書がまとまりましたら、委員の皆様にご報告をさせていただいた後に、7月 30 日に岡田会長から坂本区長への報告書をご提出いただくという予定でございます。説明は以上でございます。

	会長 以上で全ての議題が終了いたしました。皆様、長期間にわたりありがとうございました。報告書のまとめ、および区長の提出につきましては、責任を持って行いたいと思っております。 事務局 今後、検討会報告書を踏まえ、いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン2030 を策定して参りたいと思います。それでは、本検討会は、以上をもちまして閉会いたします。 誠にありがとうございました。
所管課	区民文化部 文化・国際交流課 (電話 3579-2018)